

「北方領土青少年等現地視察支援事業」 概況報告 広島県視察団 令和元年8月16日（金）～19日（月）

◇はじめに

広島市立段原中学校代表4名、広島市立東原中学校代表3名、広島市立口田中学校3名、広島市立船越中学校代表4名の生徒14名と引率教員6名（団長・副団長含む）の計20名で、広島県視察団を組織して北方領土隣接地域を視察する本事業に参加しました。

視察団を組織した生徒14名は、7月24日（水）に北方領土問題学習会に参加して、上智大学の湯浅剛教授からの講義を受け、北方領土問題に関する事前学習を行いました。

また、この学習会に参加した生徒の一人は、8月1日（木）に開催された第36回北方領土返還要求広島県民大会で、北方領土問題学習会の参加報告を務めました。

1日目 8月16日（金）

◇結団式

北方領土の視察（望見）、元島民の体験談を聞く会、啓発施設見学等の機会を持つことにより、北方領土問題を身近な問題として考えるきっかけになることを大いに期待して出発しました。写真は、広島空港での結団式の様子です。



◇根室市長講話

広島空港から羽田空港を經由して中標津空港に降り立ち、根室市までバスで移動しました。

その後、根室市役所において根室市長から講話を聞きました。昭和20年12月1日、当時の安藤石典根室町長がGHQに提出した陳情書が「北方領土返還運動」の始まりとなったことを詳しく説明していただきました。

「日本は第二次世界大戦において、「ポツダム宣言」を受諾して敗戦国となったことから、北方領土は連合国軍の占領下に置いてほしい。ソ連軍が占領していることは納得できない。」安藤町長のこの思いが届かなかったことは、今となっても無念さ残る歴史的一幕であったと痛切に感じざるを得ません。



2日目 8月17日(土)

◇歯舞漁協市場見学

水産資源の豊かな海を間近に臨む港の漁協で市場の方からお話を聞きました。北海道と言えばやはりおいしい海産物、興味深い話がたくさん聞けましたが、近年の漁獲量減少の話は、市場の方々にとっては生活に大きな影響をもたらすもので、その切実感が身にしみました。土曜日で魚の量は少なかったですが、競り(北海道では下げ競りが一般的)の様子も見学させていただきました。15m近くの昆布巻きも体験でき、生徒も興奮気味の様子でした。



◇根室市歴史と自然の資料館見学

資料館には根室市とその周辺の歴史や自然の資料が展示してあり、根室の歴史と自然について学ぶことができました。歴史的に日本の領土であったこともある樺太(カラフト)に設置してあった国境標石は、海洋国である今の日本では決してお目にかかることができない陸地にあるものとして非常に歴史的な価値の高い資料であると言えます。ロシア初の遣日使節ラクスマンや漂流民大黒屋光太夫の資料などからは、鎖国時代の日本に対して友好的な関係を築こうとする周辺国の動きに歴史のロマンを感じさせてもらうことができました。北海道にしか生息していない動植物など、生徒は興味津々に展示物を見学することができました。



◇花咲岬・車石見学

花咲岬は太平洋の荒波を直接感じる事ができる絶好のスポットで、岬の先には「日本の灯台50選」の花咲灯台もあります。車石は国の天然記念物に指定されていますが、車の車輪に似通った形をしていることから命名されているそうです。何とも不思議な形をしています、これも大自然が作り出した奇跡としか表現しようがありません。自然の偉大さが身にしみます。



◇元島民の講話・北方領土学習

ニホロ北海道立北方四島交流センターで、元島民の講話と北方領土についての学習を行いました。ニホロとは、日本（ニ）とロシア（ロ）をつなぐ北海道（ホ）の交流拠点の意味しており、北方四島に居住するロシアの人たちとの交流拠点にもなっています。

択捉島の元島民である鈴木咲子さんからの講話では、自分の故郷である択捉島、そして薬取村への思いに胸が打たれました。鈴木さんのお話の中で「領土問題がいつこうに解決していかないことへの苛立ちの中で、ロシア人と一緒に暮らすのも悪くないと思っている」という言葉は非常に印象的でした。

また、「この領土問題を若い世代に繋いでいきたいという一念で、こうした講話をする場面に立っている」とお話された後、「返還運動へ参加することは自分の使命であり、領土問題を知らない世代に関心を持ち続けて欲しい」との言葉を我々使節団へのメッセージとして受け止め、この領土問題に向き合っていく責任を痛感させられました。

ニホロ交流センターの展示室では職員の方から北方四島の歴史や現状を詳しく学ばせていただきました。展示室の資料の充実には目を見張るべきものがあり、領土問題を風化させないという国、そして北海道の強い意気込みを感じ取ることができました。継承を意識していきます。展望室からは国後島や知床半島を間近に望むことができますが、当日は残念ながら天候不順で見ることができませんでした。



3日目 8月18日（日）

◇納沙布岬・北方館見学

納沙布岬は本土最東端の岬で、貝殻島・水晶島などの歯舞諸島、国後島を臨むことができます。残念ながら国後島を望見することはできませんでしたが、灯台のみが海上から姿を現す貝殻島、板のように平坦な水晶島を間近に見ることができ、かつてそこで生活していた元島民の方々への思いを馳せることができました。

北方館では北方領土問題の発生経緯や歴史的経緯を展示資料によって閲覧することができ、職員の方に詳しく説明してもらいながら見学しました。職員の方の話しぶりから北方領土返還にかける熱い思いを感じ取ることができました。





◇牧場体験（明郷伊藤☆牧場）

午後からは伊藤牧場にて乳搾りとバターづくりを体験しました。北海道の大地に牛の画はととてもよく似合います。乳搾り、ちょっとしたコツがいりますが、生徒は飼育員の方からの指導で上手に乳を搾っていました。自分でつくったバターをつけて試食したパンの味は格別でした。それにしても広大な牧場でした。



4日目 8月19日（月）

◇エクハシの宿

3泊4日でお世話になった民宿です。宿のお母さんをはじめとしてスタッフの方々全員が、とても温かく、家庭な宿でした。4日間大変お世話になり、ありがとうございました。宿の名前である「エクハシ」は「エ」が択捉島、「ク」が国後島、「ハ」が歯舞諸島、「シ」が色丹島を表しています。つまり、この民宿は「北方領土」の宿ということです。根室らしい宿の名前に感心しました。



◇観光船クルーズ（国後島コース）

野付半島から国後島までは約16kmありますが、その中間ライン8kmまで観光船で迫りました。途中、かなり船は揺れましたが、イルカやクジラ、アザラシの出迎えに感激しました。中間ライン8km以上で船はしばらく停泊。ここから先は進むことができません。国後島の島影がぼんやりとかすんで見えます。北方領土問題が重くのしかかってきました。近くて遠いわが国固有の領土です。



◇おわりに

新聞やテレビ等、報道によりよく取り上げられ北方領土問題ですが、北方領土の隣接地域である根室市をはじめとする現地で実際に研修することにより、北方領土問題を身近な問題として認識することができました。

昭和20年8月、広島に世界初の原子爆弾が投下され、数多くの尊い命が一瞬にして奪い去られました。その

同じ8月、日本固有の領土である択捉島・国後島・色丹島・歯舞群島はソ連軍により占拠され、そこで生活していた島民たちは自分の故郷を追い出されてしまいました。その後、その故郷の島々は日本に返還されないまま現在に至っています。広島

の歴史も、北方領土の歴史も、日本人として決して忘れてはならない歴史です。「継承」することは我々の責務です。しかし、「継承」のための「交流と行動」が今まさに問われていると考えます。どのような行動を起こすことが「継承」に繋がるのか真摯に考え実行していくことが求められています。そうしたことを考えるきっかけを与えてくれた今回の研修を、今後の「交流と行動」に結び付けるために活かしていきたいと考えています。すばらしい研修の機会に心から感謝いたします。



文責

「北方領土青少年等現地視察支援事業」
広島県視察団 団長 川本尚樹
(広島県北方領土問題教育者会議会長)
(広島市立段原中学校長)